

【背景と目指す姿】

- 白沢地区は、**耕地面積の95%以上が水田**であり、水稲依存型の経営体が多く、**米の直接支払交付金の廃止による所得減少への対応が急務**である。今後、収益性の高い水田農業を展開していくためには、**需要に応じた作物の生産を進めていく必要がある**。
- そこで、**機械化一貫体系が可能であり、業務加工向けに需要が高いねぎを水田に導入し、高収益水田農業モデル産地形成を図る**。
- なお、販路については、市場出荷を基本としながら、**単価が安定し、出荷調整作業が省力化できる企業等との業務加工向けに販路を拡大**していく。

1 水田における露地野菜転換面積

現状(平成30(2018)年度):6.7ha ⇒ 目標(令和3(2021)年度):11.7ha

2 主な取組内容(令和元(2019)～令和3(2021)年度)

項目	具体的方策
農地集積・集約化	<ul style="list-style-type: none"> 導入に向けた意識啓発のため、新規栽培者向けセミナーや栽培講習会を実施 団地の形成に当たっては、地区のモデルとなる排水対策やブロックローテーション等の取組を実施 人・農地プランの地域会合等を通じ、担い手への農地集積を進め、ねぎ作付け農地の集約化を推進
効率化・省力化	<ul style="list-style-type: none"> 大型機械導入と経営シミュレーションにより大規模化を推進 出荷調整作業の労力軽減に向けた業務向けの簡素化規格出荷 労働力の需要と供給についてのアンケート調査や地域段階でのマッチング等、雇用確保のシステムを構築
加工・業務用需要への対応力強化	<ul style="list-style-type: none"> 契約相手との継続的で良好な関係を保つため、作柄や需要動向等について定期的に情報交換を実施 県から提供された食品企業の需要情報を活用し、新たな販路開拓を実施(特に、運送コストが削減可能な県内企業)



現地検討会



栽培講習会